

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：33920

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K19779

研究課題名（和文）精神科看護管理者のリハビリ志向を高める取り組み 影響要因へのアプローチから

研究課題名（英文）Initiatives to increase recovery oriented attitudes among psychiatric nursing managers -By approaching the factors that influence recovery-oriented attitudes-

研究代表者

松井 陽子 (Matsui, Yoko)

愛知医科大学・看護学部・助教

研究者番号：60793031

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000円

研究成果の概要（和文）：精神科病院におけるリハビリ志向の実践に向けて、看護管理者のリハビリ志向を高めるための教育プログラムを開発、実施し、評価した。

プログラム前後でリハビリ志向に関する尺度であるRAQ-7、RKIの得点は上昇したものの、統計的有意差はみられなかった。プログラム評価の面接調査では、看護管理者からプログラムの構成、内容、資料の適正性が語られた。また、リハビリ志向の実践に向けた意識や具体的な行動の変化が見られており、看護管理者のリハビリ志向を高める有用性が示唆された。プログラムの中でSWOT分析を実施したことで、対象施設の特徴をふまえた教育プログラムが作成でき、内容妥当性を高められた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

精神科病院におけるリハビリ志向の実践に向けて、看護管理者のリハビリ志向を高めるための教育プログラムを開発、実施し、評価した。

プログラム前後でリハビリ志向に関する尺度の得点は上昇したものの、統計的有意差はみられなかった。しかし、プログラム評価の面接調査では、看護管理者からプログラムの構成、内容、資料の適正性が語られ、リハビリ志向の実践に向けた意識や具体的な行動の変化が見られており、看護管理者のリハビリ志向を高める有用性が示唆された。また、今後、教育プログラムの有用性を高めるための課題が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：I developed and evaluated an educational program to increase the recovery-oriented attitudes of nursing managers toward recovery-oriented practice in psychiatric hospitals.

Scores on the RAQ-7 and RKI, which are measures of recovery-oriented attitudes, increased before and after the educational program, but no statistically significant difference. In the interview survey for evaluation of the educational program, nursing managers narrated about the program's structure, content, and appropriateness of materials. Additionally, there were changes in awareness and specific behaviors toward recovery-oriented practices, suggesting the usefulness of educational programs to increase recovery-oriented attitudes. By incorporating SWOT analysis into the educational program, we were able to create an educational program that took into account the characteristics of the target hospital, increasing its content validity.

研究分野：精神看護学

キーワード：リハビリ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

精神保健医療において、当事者の人生の希望や目標を重視するリカバリー概念を中心に据えた支援を求められているが、日本ではその実現には至っていない。精神障害者のリカバリーを促進することは急務の課題であり、精神科病院において医療従事者がリカバリー志向の姿勢や態度を身につけることが求められている。看護管理者は組織の中核的な存在であり、看護実践に影響を与えることができるため、看護管理者の態度がリカバリー志向の実践を強化する上で重要な役割を果たす。そこで、精神科看護管理者のリカバリー志向を高める教育プログラムの開発が必要である。

2. 研究の目的

精神科病院におけるリカバリー志向の実践に向けて、看護管理者のリカバリー志向を高めるための教育プログラムを開発、実施し、評価する。

3. 研究の方法

精神科看護管理者を対象として2段階で研究を展開した。まず、教育プログラムを開発するための基礎的研究(研究1)と教育プログラムの実施と評価のための研究(研究2)である。

研究1では、看護管理者のリカバリー志向と精神科病院のリカバリー志向の実践に影響を与える要因を共分散構造分析と概念分析、半構造化面接調査より明らかにした。看護管理者のリカバリー志向を高めるためには、リカバリーに関する知識や経験が必要であり、リカバリー志向の実践には、組織の文化や風土、構造が影響することが明らかになった。

研究2では、研究1の結果と先行研究(香田ら, 2013; 田村ら, 2023)をもとに教育プログラムを開発、実施し、評価した(表1)。教育プログラムへの参加の同意が得られた1精神科病院の看護部長、師長、主任など看護管理者9名を対象に、観察期間を設けた対照群のない前後比較による介入研究を行った。教育プログラムは、1回60分程度、月2回、全5回の講義、ディスカッション、講演会、事例検討で構成され、リカバリーに関する知識の習得やピアサポーターによるリカバリーストーリーを聞く体験を含む方法とした。また、組織の文化や風土が看護管理者のリカバリー志向に影響することが明らかになったため、組織の特徴を知るためにSWOT分析を行い、教育プログラムの内容に反映した。教育プログラムの評価として、リカバリー志向性尺度(RAQ-7)、リカバリー知識尺度(RKI)を用いた自記式質問紙調査を行い、プログラム実施3か月前、実施直前、実施直後、実施3か月後の4時点の平均得点の推移と個々の総合得点の変化の比較を行った。また、プログラム終了後に面接調査を実施し、Graneheim(2004)の方法を用いて分析を行った。

表1 精神科看護管理者のリカバリー志向を高めるための教育プログラム内容と方法

回	内容	方法	研修の目的と内容
1	プログラムに向けたディスカッション(病院の現状・リカバリーに関するニーズと課題を把握)	グループディスカッション	【目的】看護管理の専門家を講師として依頼し、病院の組織構造や資源、スタッフの資質、現在抱えている課題等の病院の現状などから、リカバリーに関するニーズや課題を把握し、プログラムに反映させる 【内容】ディスカッションテーマ:看護実践の現状や課題、リカバリーに関して求めていること
2	リカバリーとは	講義	【目的】リカバリーに関する知識を習得する 【内容】リカバリーとは、リカバリーに関するプログラムについて、社会資源の活用方法など
3	リカバリーが経営資源に与える影響	講義 グループディスカッション	【目的】看護管理の専門家を講師として依頼し、患者やスタッフがリカバリーすることで得られる効果を知る 【内容】リカバリー実践による組織のメリットを提示(例:平均在院日数の短縮、ベッド回転率の上昇、患者満足度の上昇、離職率の低下など) リカバリー看護実践を導入している病院の実際の導入方法とその効果 ディスカッションテーマ:リカバリー志向の実践の導入において強みまたは弱みとなることについて
4	ピアサポーターによるリカバリーストーリーの語り	講演会	【目的】当事者にリカバリーストーリーを語ってもらい、患者のリカバリーを体験する 【内容】地域で暮らす精神障害者やピアサポーターからリカバリーしていく過程やその過程で支援者に求めること
5	Rappのストレングスモデルを活用した事例検討	事例検討	【目的】事例をもとに、具体的な実践方法を考える 【内容】Rappのストレングスアセスメントおよび個別リカバリープランを活用した事例検討

4. 研究成果

(1) 教育プログラムを完遂できたのは9名中7名であった。対象者の平均年齢は51.3 (SD = 9.2) 歳, 平均精神科臨床経験年数は12.9 (SD = 12.2) 年, 平均管理者経験年数は4.3 (SD = 2.8) 年であった。

(2) 看護管理者のRAQ-7, RKIは, 教育プログラムの実施前後で得点は上昇したものの, 統計的有意差はみられなかった(表2)。

表2 看護管理者の評価尺度得点の平均値の推移

	実施3か月前		実施直前		実施直後		実施3か月後		χ^2 値 ¹⁾	P値
	平均	(SD)	平均	(SD)	平均	(SD)	平均	(SD)		
RAQ-7全体	27.00	(2.08)	27.67	(2.05)	28.33	(2.36)	27.83	(2.34)	2.28	0.52
信念	15.00	(1.29)	15.33	(1.37)	15.67	(1.70)	15.33	(1.70)	1.12	0.77
困難	12.00	(1.00)	12.33	(0.75)	12.67	(0.75)	12.50	(0.76)	3.60	0.31
RKI全体	55.83	(9.06)	56.50	(6.00)	59.00	(4.86)	58.50	(7.46)	4.05	0.26
精神症状とリカバリー	15.33	(3.04)	15.50	(1.98)	16.00	(1.53)	16.00	(2.58)	1.36	0.72
リカバリープロセス	15.83	(3.08)	16.00	(2.31)	17.17	(2.34)	17.33	(2.29)	2.06	0.56
リカバリーのために大切なこと	11.33	(1.37)	11.67	(0.94)	12.17	(0.69)	11.00	(2.00)	4.46	0.22
リカバリーでの挑戦と責任	13.33	(2.05)	13.33	(1.60)	13.67	(1.37)	14.17	(1.34)	2.85	0.42

¹⁾ Friedman検定により算出 RAQ-7: Recovery Attitudes Questionnaire; RKI: Recovery Knowledge Inventory

(3) 教育プログラム後のリカバリー志向の変化について質的に分析した結果は, 表3の通りであり, 5コアカテゴリが抽出された。

教育プログラムの実施前後で【プログラムに参加したことによる管理者自身の変化】と【プログラムに参加したことによる看護部の変化】が語られていた。看護管理者は教育プログラムに参加することで<患者のリカバリーを信じられる体験>をし, <患者のリカバリーを支えたいという思い>を抱いていた。また, <リカバリーを学ぶ必要性の気づき>があり, <研修の学びをスタッフに伝えたいという思い>を抱き, <病棟にストレンクスモデルの導入を検討>するなど【プログラムの学びの看護への活用】を検討していた。一方で, 学びを得たことで, <スタッフへのリカバリーに関する教育の課題>など, 新たに【リカバリー志向の実践に向けた課題の気づき】があった。全体としては, <プログラムに参加したことによる満足感>などの【プログラム評価】がされていた。

表3 面接調査による教育プログラムの評価

コアカテゴリ	カテゴリ
プログラムに参加したことによる管理者自身の変化	リカバリーを学ぶ必要性の気づき
	リカバリーを浸透させるための管理者への教育の重要性
	これまでの看護を振り返る機会
	患者のリカバリーを信じられる体験
	患者のリカバリーを支えたいという思い
	患者のリカバリーに向けた看護師のかかわりの重要性への気づき
	管理者自身の課題の気づきと意識・行動の変化
プログラムに参加したことによる看護部の変化	管理者間の関係性の構築につながった交流の機会
プログラムの学びの看護への活用	リカバリーストーリーを聞いたことによる管理者の気づきを看護へ活用
	リカバリーストーリーをスタッフ・患者・家族に聞いてほしいという管理者の思い
	リカバリー志向の実践を活用していくことへの期待
	研修の学びをスタッフに伝えたいという思い
	リカバリーに向けた実践を組み込んだ次年度の病棟目標
	病棟にストレンクスモデルの導入を検討
	リカバリー志向の実践に向けて他職種や外部の力を活用したいという思い
リカバリー志向の実践に向けた課題の気づき	スタッフの経験と知識の不足
	スタッフへのリカバリーに関する教育の課題
臨床現場の視点から捉えたプログラム	適当であったプログラム内容・資料・構成
	プログラムに関する課題
	プログラムの学びを看護に活用する困難さ
	他病院でのリカバリーに向けた実践への興味
	プログラムに参加したことによる満足感

(4)教育プログラムの評価において、面接調査では看護管理者から教育プログラムの構成、内容、資料の適正性が語られた。SWOT 分析を実施したことで、対象施設の特徴をふまえた教育プログラムが作成でき、内容妥当性を高められたと考える。教育プログラムの効果として、実施後には RAQ-7, RKI とともに得点の上昇が見られたものの、統計的有意差は見られなかった。しかし、患者のリハビリを支援したいという思いが芽生えたり、リハビリに向けた実践を組み込んだ次年度の病棟目標を掲げるなど、リハビリ志向の実践に向けた意識や具体的な行動の変化が見られており、看護管理者のリハビリ志向を高める有用性が示唆された。

今後は、教育プログラムの有用性を高めるために、プログラム内容の精査や実施方法の検討が必要である。

<引用文献>

香田真希子，園環樹，贄川信幸（2013）．精神保健従事者を対象とするリハビリに焦点を当てた包括型地域生活支援プログラム研修の効果，作業療法，32(4)，314-332．

田村達弥，明間正人，渡邊照子他（2023）．精神科病棟看護師のリハビリ志向を高める研修プログラムの効果，日本精神保健看護学会誌，32(2)，1-11．

Graneheim, U.H., Lundman, B. (2004). Qualitative content analysis in nursing research: concepts, procedures and measures to achieve trustworthiness, Nurse Education Today, 24(2), 105-12.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 松井陽子、片岡三佳	4. 巻 7
2. 論文標題 精神科看護管理者が認識するうまくいったリカバリーに向けた取り組み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 朝日大学保健医療学部看護学科紀要	6. 最初と最後の頁 2-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松井陽子、片岡三佳	4. 巻 6
2. 論文標題 精神科病院のトップマネージャーが抱える課題についての国内文献レビュー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 朝日大学保健医療学部看護学科紀要	6. 最初と最後の頁 27-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Matsui Y, Kataoka M, Tanimura S.	4. 巻 -
2. 論文標題 Factors influencing the recovery-oriented attitudes of nursing directors in psychiatric hospitals: A cross-sectional study in Japan.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Psychiatric and Mental Health Nursing	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/jpm.13002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松井陽子、片岡三佳	4. 巻 43
2. 論文標題 看護部長が認識する精神科病院入院患者のリカバリーに向けた実践に影響する要因	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本看護科学会誌	6. 最初と最後の頁 439-449
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5630/jans.43.439	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 松井陽子, 片岡三佳
2. 発表標題 Factors influencing recovery-oriented practices perceived by top nursing directors in Japanese psychiatric hospitals: A qualitative study
3. 学会等名 EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松井陽子
2. 発表標題 精神科看護管理者のリハビリ志向の概念分析 - 中間報告 -
3. 学会等名 日本精神保健看護学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松井陽子, 片岡三佳
2. 発表標題 精神科病院における看護トップマネージャーを対象にした国内文献レビュー
3. 学会等名 日本精神保健看護学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松井陽子, 片岡三佳
2. 発表標題 精神科看護管理者が認識するうまくいったリハビリに向けた取り組み
3. 学会等名 日本精神障害者リハビリテーション学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松井陽子, 片岡三佳, 谷村晋
2. 発表標題 精神科看護管理者のリカバリー志向とその関連要因に関する研究
3. 学会等名 日本看護科学学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松井陽子, 片岡三佳, 宮田千春
2. 発表標題 精神科看護管理者のリカバリー志向を 高める教育プログラムの評価～実施後の面接調査より～
3. 学会等名 日本精神障害者リハビリテーション学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松井陽子, 片岡三佳
2. 発表標題 精神科病院入院患者のリカバリーに向けた実践に影響する要因～男性看護部長に対する面接調査から～
3. 学会等名 日本看護科学学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松井陽子, 片岡三佳
2. 発表標題 精神科看護管理者のリカバリー志向に関与する要因とその構造化： 共分散構造分析による検討
3. 学会等名 日本看護科学学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------